

第5期 令和4(2022)年度 新宿区多文化共生まちづくり会議 第6回全体会 議事概要

日 時 2022年8月29日(月) 10:00~12:00

場 所 新宿区役所本庁舎5階 大会議室

出席委員 稲葉委員、小林委員、郭委員、長谷部委員、岡田委員、松田委員、李委員、
金(勲)委員、奥田委員、朴委員、鈴木委員、盛委員、安藤委員、陳委員、
タイン委員、原田委員、本多委員、山口委員、伊藤委員、國谷委員、内田委員
21名

欠席委員 毛受委員、申委員、パトリック委員、ブサン委員、センブ委員、
ドゥラ委員、江副委員、金子委員、守重委員、井上委員 10名

1 開会

2 新宿区多文化共生まちづくり会議審議結果報告について

(1) 区長へ報告書提出

会長から区長へ報告書を提出した。

(2) 審議結果報告

ア 全体の構成と概要の説明

会長から報告書全体の構成の説明があり、続けて、第1章から第4章まで、区の施策の概要や今期まちづくり会議のテーマ「日本人と外国人が共につくる地域社会のあり方」、第1部会「新たな外国人住民の受入れに関する部会」と第2部会「外国人の地域での生活に関する部会」のまとめの概要を確認した。

イ 提言の説明

その後、第5章「提言」について、詳細な説明があった。

項目1「新たな外国人の受入れにあたって」では、「転入時の工夫」として転入手続きのために外国人が区役所に来庁する機会を活かし、新宿生活スタートガイドという動画の活用や、外国人相談や日本語教室の案内、集団で手続きする機会などを活用した生活関連情報の提供などに取り組むことを提言した。

また、「外国人に寄り添った相談体制」として、専門機関との連携や外国人コミュニティの支援などによる相談機能の強化、日本語学校や外国人コミュニティを通じた周知や二次元コードを活用したチラシ作成などによる相談窓口の周知について提言した。

さらに『『日本語の学習支援の強化』として、プラザの日本語学習教材やフリースペースの活用、文化庁のオンライン教材「つながるひろがるにほんごでの暮らし」などオンライン教材を活用した学習支援の強化とニーズに合わせて選べるような情報提供、内容がわかるようなチラシの工夫などによる日本語学習機会の周知について提言した。

最後に「情報の効果的な発信とサポート」として、新たに暮らし始めた外国人が入国する前、暮らし始めた段階、その後の三つの段階で情報を取得できるようにすべきことを指摘したうえで、その発信について、守るべきルールなど住み続けるために必要な情報を重点的に取り上げることや、ライフステージ別などの属性や目的に応じて情報を取得できるようにする工夫、外国人コミュニティとの連携、プラザが持つ機能の活用などを提言した。

項目2「外国人が地域で暮らすために」では、「ライフステージ別の情報提供、地域参加と交流」として、留学生と子育て世代に分けて提言した。

留学生は、学習や日本人との交流の機会に関する情報を求めていることを指摘するとともに、そうした情報を日本語学校や外国人コミュニティを通じて提供すること、既存のイベントや趣味サークルなどの場を活用することを提言した。

妊娠、出産、乳幼児期の子育て世代は、子育て支援サービスや保育園の入園などの手続きに関する情報、同じ子育て世代の日本人との交流機会に関する情報を求めていることを指摘した上で、子育てサークルなど外国人がつながりを持ちやすい機会を活用して情報を提供することや日本人の集まりに外国人が参加しやすいように配慮して、日本人を含む保護者同士が交流できる機会を創出することを提言した。

学齢期の子育て世代は、日本の教育制度に関する情報や各種手続きに関する情報を求めており、地域のサポートが大切な世代であることを指摘するとともに、学校などの外国人がつながりやすい機会を活用して求められている情報を提供すること、日本人の集まりに外国人が参加しやすいように配慮して、日本人を含む保護者同士が交流できる機会を創出することを提言した。

また、「外国人コミュニティとの連携」として、外国人コミュニティが様々な活動を通じ地域の外国人をサポートする活動を行っているとともに、日本人との交流や他団体の連携を望んでいることを踏まえて、外国人コミュニティが行っている日本人との交流を支援することや、外国人コミュニティと他の団体との連携支援を提言した。

さらに「関係づくりにつながる地域活動」として、外国人が地域の住民と関係を持ちつつ暮らすことで様々なサポートが得られることを踏まえて、参加者同士が交流できる仕掛けを組み込む、外国人が主催者側に入るような開催方法の検討など、継続的に参加したくなるイベントの工夫、お祭りや交流会などの地域の既存資源の活用、関係づくりを促進する役割を果たすようにプラザを活用することを提言した。

項目3「日本人と外国人がともに作る地域社会に向けて」では、多文化共生意識の醸成」と「顔の見える関係づくり」について提言した。

「多文化共生意識の醸成」として、地域の人たちに対する多文化共生に関する説明をする機会の創出や若者の多文化共生意識を醸成する取組、区役所職員の多文化共生に関する知識の向上などを提言した。

また、「顔の見える関係づくりに向けて」として、外国人を生活者として支え、本人と外国人が地域でよりよい関係を築いていくために、交流機会や外国人との連携、ライフステージに配慮した情報提供などの取り組みについて提言した。

おわりに、本提言に掲げた取り組みを実行し、よりニーズを把握することに努め、地域における顔の見える関係づくりを進めるよう望むことを述べた。

※ 詳細は報告書のとおり

(2) 区長あいさつ

2年間という大変長い期間にわたり審議いただいたこと、また、コロナ禍で様々な部分でご配慮をいただいたことについて、感謝を申し上げる。

今回は、新たな外国人住民の受入れにあたっての課題、生活者としての外国人が地域で直面する課題について、様々な立場からご意見を頂戴した。外国人の方への情報提供の場面では、コロナワクチンなどで外国人コミュニティや日本語学校と連携できたことは一つの収穫であり、今後も継続的に行うことによって会議で話し合われたことが実体のあるものとして推進されていくのではないかと考えている。また、情報を必要としている方がすぐに情報へたどり着けるようにしていくことが暮らしやすさにむけて大切なのではないかと考えている。

様々なご提言をいただいたので、引き続きこのまちで暮らしやすかったと思っていただけるように取り組んでいきたい。

3 委員からのコメントと会長あいさつ

委員から、今期の審議を通じた感想が、その後、会長から委員に対するお礼の言葉と、区に対する提言の施策への反映に対する期待が述べられた。

4 その他

5 閉会